

平成25年11月28日

武雄市長 樋渡啓祐 様

武雄市立武雄市民病院移譲先病院評価委員会
委員長 信友浩一

平成24年事業年度の業務実績に関する評価結果

1 評価の方法

武雄市立武雄市民病院移譲先病院評価委員会において新武雄病院の運営状況について評価を行った。評価は、当該法人より提出された平成24年事業年度に係る業務実績報告書をもとに評価の基本方針（平成23年1月24日策定）及び年度評価実施要領（平成23年1月24日策定）により行っている。

評価については、各年度実施する年度評価と目標期間を3年とする中期目標期間評価に大別し、今回は3年次の年度評価を小項目評価、大項目評価及び全体評価で行った。評価手法の概略は次のとおり。

- ・小項目評価 法人による5段階の自己評価と法人からのヒヤリング等を通じて、各委員により評価。
- ・大項目評価 各委員の評価を独立した評価として取り扱い 評点に応じて5段階で評価。
- ・全体評価 中期計画の進行状況全体について総合的に評価。

2 小項目評価

小項目評価の結果を次に示す。各委員において評価にばらつきがあったが、個々の委員の評価を尊重するためそれぞれ独立した評価とした。また、会議の内容及び評価点数を補足するものとして評価コメント等を参考として追記した。

※判定基準

- 5 年度計画を大幅に上回って実施している。
- 4 年度計画を上回って実施している。
- 3 年度計画を順調に実施している。
- 2 年度計画を十分に実施できていない。
- 1 年度計画を大幅に下回っている。

(1) 武雄市民病院事業譲渡契約の履行に関する事項

小項目	小項目細区分	法人評価	委員の評価別人数				
			1	2	3	4	5
救急医療の確保	救急医療の確保	4				5	
〃	消防との連携強化	4				5	
地域医療機関との連携		3			5		
診療科目、病床数等		4			1	4	
保健医療行政への協力		4				5	
病院の運営に関する意見の聴取等		4				5	
地域住民の意見の聴取		3		1	4		
病院の継続運営		4			2	3	

○救急医療の確保

(評価できる点)

- ・逆紹介がすすんでいる。
- ・地域医療機関との連携はかかなり改善されたようだ、更に中核的急性期病院としての役割を果たされたい。
- ・救急受け入れ体制と、救急搬送のバランスが取れている。

(改善又は要望事項)

- ・どこが原因で自己評価点が「5」ではないのか整理をして欲しい。

○地域医療との連携

(評価できる点)

- ・市外の医療機関との連携は図られてきている。
- ・地域の医療機関を担う病院として重要な役割をもっており、地域でなくてはならない病院となっている。地域連携室は十分努力されている。

(改善又は要望事項)

- ・地域医療機関との情報共有や効率化のためのネットワークシステムの導入の検討をして欲しい。
- ・逆紹介数は上がっている。今後もどんどん増やすことが、地域医療連携を深める一歩である。

○診療科目、病床数等

(評価される点)

- ・中核的急性期病院として、使命を果たすために、一般病床を減じ、集中治療室を増床したことは適切である。

(改善又は要望事項)

- ・限られた病床数でよく運営されているが、驚異的な病床利用率であり、一般入院患者へのリスクが懸念される。

○保健医療行政への協力

(評価できる点)

- ・受診者への対応が丁寧である。

○地域住民の意見の聴取

(改善又は要望事項)

- ・地域各種団体から選出された「地域評議員会」による意見は欠かさないことであるため、回数を増やすべき。

○病院の継続運営

(評価できる点)

- ・嬉野医療センターとの連携も多く行われているとともに、その他の医療機関との連携もされている。

(2) 医療サービスの質に関する事項

小項目	小項目細区分	法人 評価	委員の評価別人数				
			1	2	3	4	5
地域医療に必要な高度医療の充実	高度医療の充実	4			1	4	
	高度医療機器の計画的な更新整備	3			4	1	
医療スタッフの確保、専門性及び医療技術の向上	医療スタッフの確保	3			4	1	
	専門性及び医療技術の向上	4				5	
より安心して信頼のできる質の高い医療の提供	医療安全対策の徹底	4			1	4	
	患者中心の医療の実践	3			5		
	科学的な根拠に基づく医療の推進	4			2	3	
法令行動規範の遵守		4			3	2	
研修研究会を通じた地域医療への貢献		5				4	1
診療待ち時間の改善等		3			4	1	
患者・来院者のアメニティの向上		4				5	
患者の利便性向上		3			5		
災害時における医療協力		4				5	
市民への保健医療情報の提供・発信		4				5	

○医療スタッフの確保、専門性及び医療技術の向上

(評価できる点)

- ・本地域における医療スタッフの確保は容易ではなく、各種研修指定病院として努力している姿勢に対し敬意を表する。

(改善又は要望事項)

- ・医師のみではなく看護師に対する技術やメンタル面を含めた研修を是非実施して欲しい。
- ・転院先の医療機関などへ技術提供を行うことで、地域医療機関の技術等のレベル向上を担って欲しい。

○より安心して信頼できる質の高い医療の提供

(改善又は要望事項)

- ・患者の医療不安を叫ばないために、コンプライアンスルールの明確化、周知徹底を図ること。

○法例行動規範の遵守

(改善又は要望事項)

- ・倫理委員会については、諮る事案がなくても定期的開催し、未然防止に努めるべきである。

○診療待ち時間の改善等

(評価できる点)

- ・病院内で役割分担を行い、初めて来院する患者への配慮をするなど、受付及び案内係の改善がなされ接遇面での向上が見られる。

○災害における医療協力

(評価できる点)

- ・予測がつかないのが災害であり取組には大いに評価できる。

(3) その他

小項目	小項目細区分	法人 評価	委員の評価別人数				
			1	2	3	4	5
経営の効率化	法人としての運営管理体制の確立	4				5	
	業務執行体制の見直し	3			5		
	職員の職務能力の向上	4				5	
	収入の確保と費用の節減	4				5	
当該医療圏での不足医療の把握		4			2	3	
地域貢献		4			1	4	

○経営の効率化（職員の職務能力の向上）

(改善又は要望事項)

- ・各種研修等により築かれた本院の優れた医療技術を地域医療のレベルアップのために職員の派遣等により提供してほしい。

○当該医療圏での不足医療の把握

(評価できる点)

- ・個々の医療機関との連携も徐々に進んでおり、紹介者数は上がっている。地域との組織的な連携には時間が必要だと思われるので今後に期待したい。

○地域貢献

(評価できる点)

- ・病院の主たる事務所を武雄市（新武雄病院）へ移転された。

3 大項目評価

大項目評価については、各委員の小項目の評価結果を集計し、その評価点数に応じて中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況について評価した結果、次表のとおりとなった。

【判定基準】

- 「特筆すべき進捗状況」 中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
(評価委員会が特に認める場合)
- 「計画どおり」 中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。
(すべての項目が5～3)
- 「おおむね計画どおり」 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね計画どおり進んでいる。
(5～3の割合が9割以上)
- 「やや遅れている」 中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。
(5～3の割合が9割未満)
- 「重大な改善事項あり」 中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある。
(評価委員会が特に認める場合)

大項目	小項目 評価数	各委員の小項目評価結果					大項目評価
		1	2	3	4	5	
武雄市民病院事業譲渡契約の履行に関する事項	8	0	1 (2.5%)	12 (30.0%)	27 (67.5%)	0	おおむね計画どおり
医療サービスの質に関する事項	14	0	0	9 (41.4%)	40 (57.1%)	1 (1.5%)	計画どおり
その他 (経営の効率化、当該医療圏での不足医療の把握、地域貢献)	6	0	0	8 (26.7%)	22 (73.3%)	0	計画どおり

(1) 武雄市民病院事業譲渡契約の履行に関する事項

昨年度評価に引き続き中期目標・中期計画の達成に向けて「おおむね計画どおり」進んでいるとの評価となった。地域医療との連携に関する項目について、高い評価であるが、地域住民の意見聴取に関する項目について、毎年度継続した指摘をしており、今後努力を願いたい。

(2) 医療サービスの質に関する事項

中期目標・中期計画の達成に向けて「計画どおり進んでいる」との評価となった。昨年度は、「おおむね計画どおり」という評価であったが、患者の利便性向上に関する取り組みが向上したため、本年度は1段階評価が向上した。小項目評価「2」（年度計画を十分に実施できていないとする評価）が一つもなく計画どおり着実に進んでいるということは評価できる。昨年度は、医療スタッフ以外の職員の接遇に不十分さを指摘する声もあったが、今年度は、大きく改善されており、評価委員会からの指摘事項に対し、迅速に対応されたことは大きく評価できる。

(3) その他（経営の効率化、当該医療圏での不足医療の把握、地域貢献）

中期目標・中期計画の達成に向けて「計画どおり進んでいる」との評価であった。昨年度に引き続き経営の効率化に関しては、法人と評価委員の双方で評価が高い結果となっている。小項目評価の「2」が一つもなく計画どおり着実に進んでいるということは大きく評価できる。

また、評価委員会が継続して指摘してきた、法人の主たる事務所の武雄市への移転について、迅速に対応され大いに評価をしている。

4 全体評価

大項目評価は、「おおむね計画どおり」から「計画どおり」へ向上した事項があり、前年度より評価は向上した。

小項目評価の点数を見ると法人の自己評価と各委員の評価が前年度に比べさらに類似している。双方の評価の低い部分は、共通認識として同じ視点で課題点と認めている項目であり、これからの改善を期待したい。

地域との医療連携や診療機能の充実のために、一般病床を減じ、ICUを増設したことは評価できる一方、新武雄病院への需要の高さによる高い病床利用率は患者へのリスク増大につながるため、継続的な課題として整理をする。また、情報共有ソフトの導入や、他の医療機関への高度な技術等の提供を行うべきなど、新しい視点での地域連携の提案を行った。地域医療機関との連携は不可欠であるため今後とも継続して連携整備に努められたい。

本年度の評価は、本審査委員会も3年度（3回目）であり、各委員も前2回の結果を考慮し経年的な評価も実施することができたと考えている。本会の評価結果について、真摯に、かつ迅速に対応し、課題の改善へ努力されている新武雄病院の姿勢は大いに評価するとともに、さらなる課題点の改善に期待したい。